

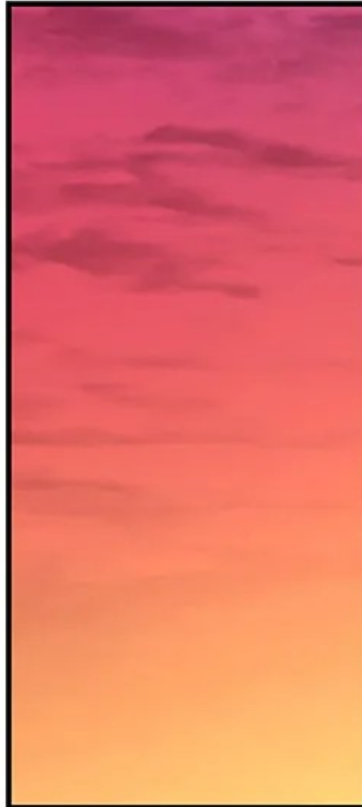
2



イヌカミ

作画 蘭夢

原作 ぽんだん



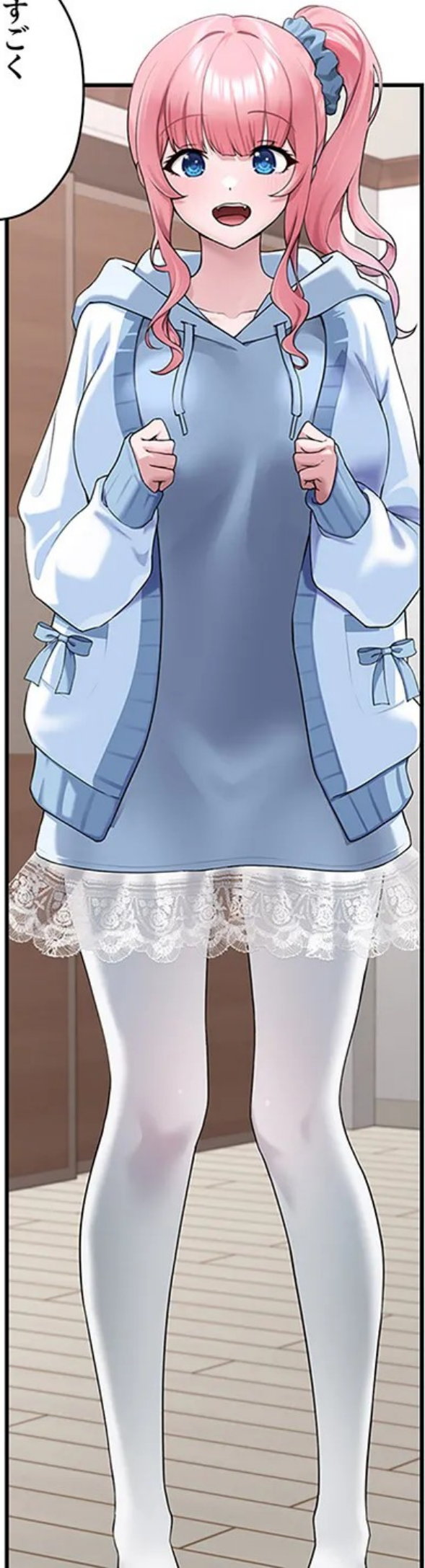


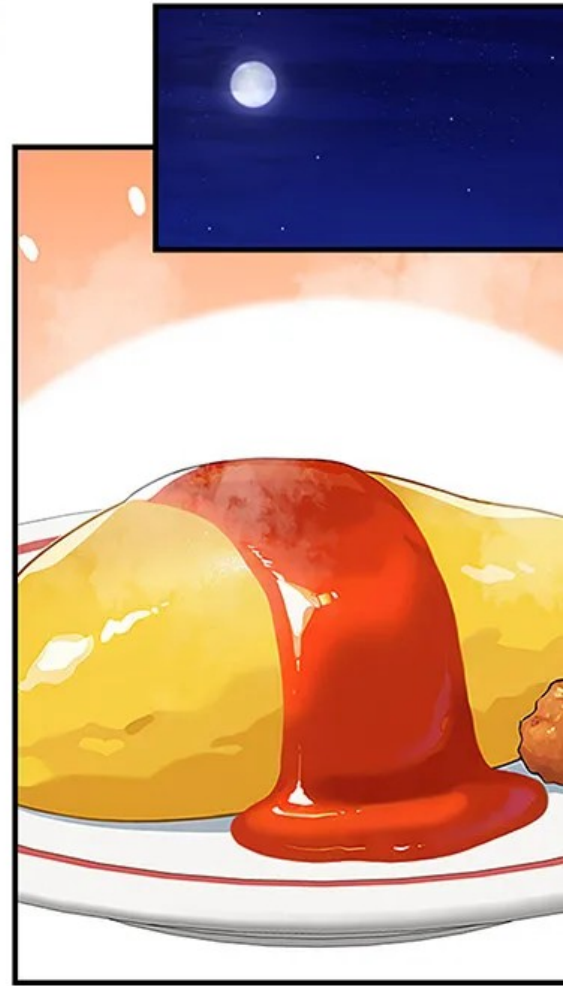
すっく
可愛いですう！

嬉しいっ！
お気に入りの
お洋服！



じゃあ
行きますか！





召し上がれ

いただきます!!





嫌だね

食べたいなら
注文すれば？



お兄ちゃんのおいしそう！
一口ちょうだい！！



い…
いじわる



2つも
食べられないし〜

ちよつと
味見させてって
言ってるだけじゃん

残せば
いいだろ





ひゃあー!!



はい
どうぞ



あっ
そうだ
明日から
帰りが遅く
なります



いえ
大丈夫です

これも
おいひい! ご主人様も
セナの味見
しますかあ?



仕事が
多くて…
僕の帰りを
待たずに先に
寝てくださいね



ええ…かなり遅くなると
思います

とにかく僕のこと
気にせず休んで
大丈夫なので…



そ…そんなに遅くなるんですか？



はい…



いって…
らっしゃいませえ…

ご主人様あ…



ご飯は…
用意…おき…

…は…
…ですから…







うわあん...
お母さん...
ごめんない
お腹空いたよお

助けて
ドゥ 会いたいよ
ゴッ
イヤだ... 啊啊あ
バシバシ かわめてえ
ズ
ボコッ







ただい...



予定よりかなり遅くなっちゃったセナさんきつと寝てるよな？

静かに入らなきや



セナさん!?



ご主人様…？

大丈夫
ですか!?



しっかり
してください!!



おかえり…
なさいませ…



よかった…



ご主人…様あ…

…





こうやって
一人でいたら

嫌なことを
思い出して...



いつも一人に
なりたかったのに...

一人が
よかったのに...




心を

読まれた
気分だった




そしたら
怖くなって...


よくないこと
ばかり
考えちゃって...




現実から目を
背けるために
始めた一人暮らし




増えていく
一人の時間




他人との些細な
関わり合いも
ストレスになり
人間関係を最小限に
とどめてきた




一人でいる
ときくらいは
嫌な記憶から
逃げられると
思っていた




そんな僕を
嘲笑うかのように



それ以上
一人の時間が
耐えられなくなって

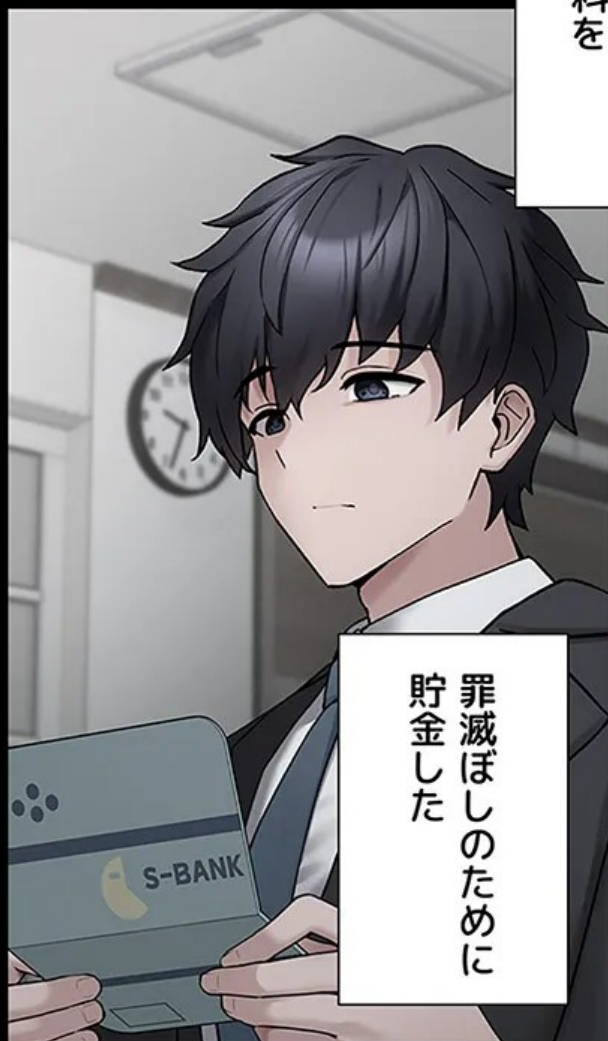


無理やり
仕事を増やして
残業をし



静けさと寂しさは
過去の記憶を
より鮮明に
呼び起こした

手当がついた
給料を



罪滅ぼしのために
貯金した

そして
いつの間にか
生きる意味が
貯金をすることに
なったが



欲を捨てた
この疲弊した
生活が



少しばかり
僕の罪悪感を
取り除いてくれた

そうして
灰色の日々を
送っていた
僕の元に





いつも後悔
していたこと

あのと
き一口あ
げればよ
かった

もう一度
チャンスが訪れた
ようだった

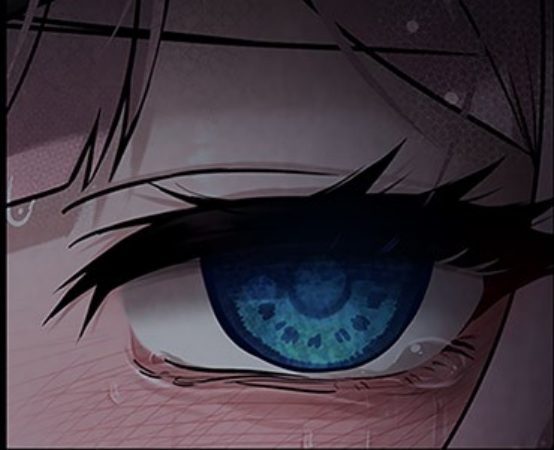


彼女が
現れた



どうしてすぐに
助けなかった
んだろう……





それとも
あのとき……？



セナさんを
置いてどこかに
行ったりしません

セナさんが助けを
必要としたとき
僕が必ず助けます



仕方なく遅くなる日も
あると思うけど
なるべく10時までには
帰ってくるように
しますので

この家で待って
いてください
この家に怖い人は
入ってきません
僕とセナさんの
二人だけの空間です

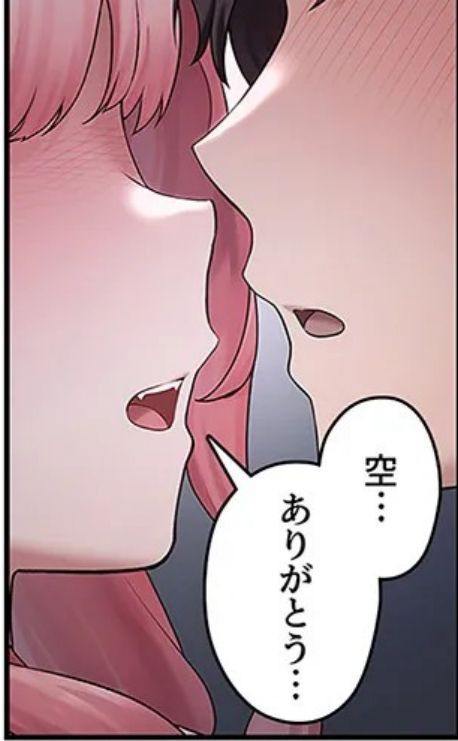


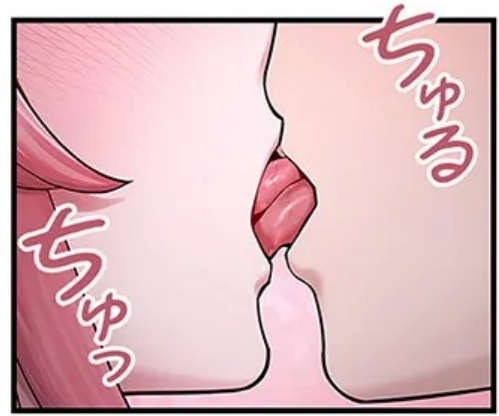
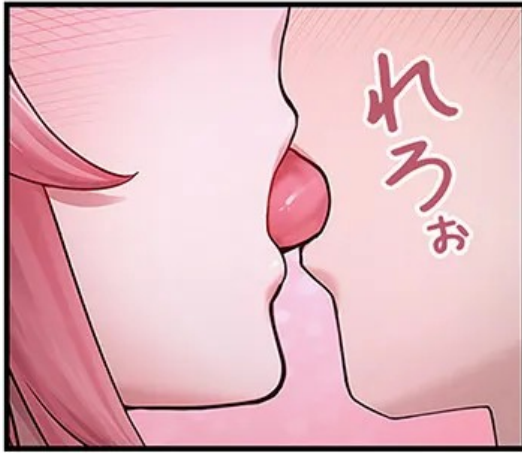
心配しないで
ください…

僕は絶対に
帰ってきますから











舌…小さいなあ…
歯も小さくて
温かい…

れりゅ

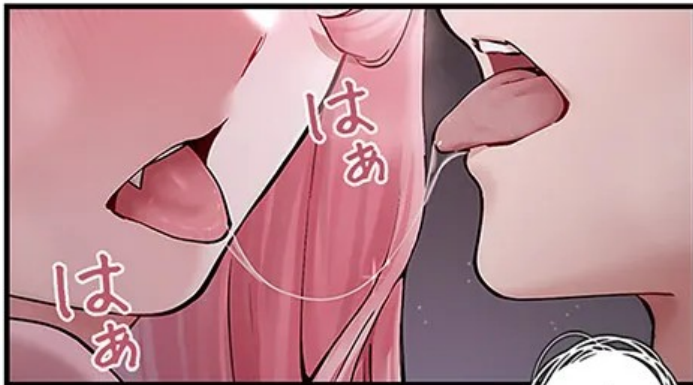
んむっ



くちゅ

ちゅむ

ちゅう



はあ

はあ

人の肌



温もり

はっ

体臭

はっ

息遣い

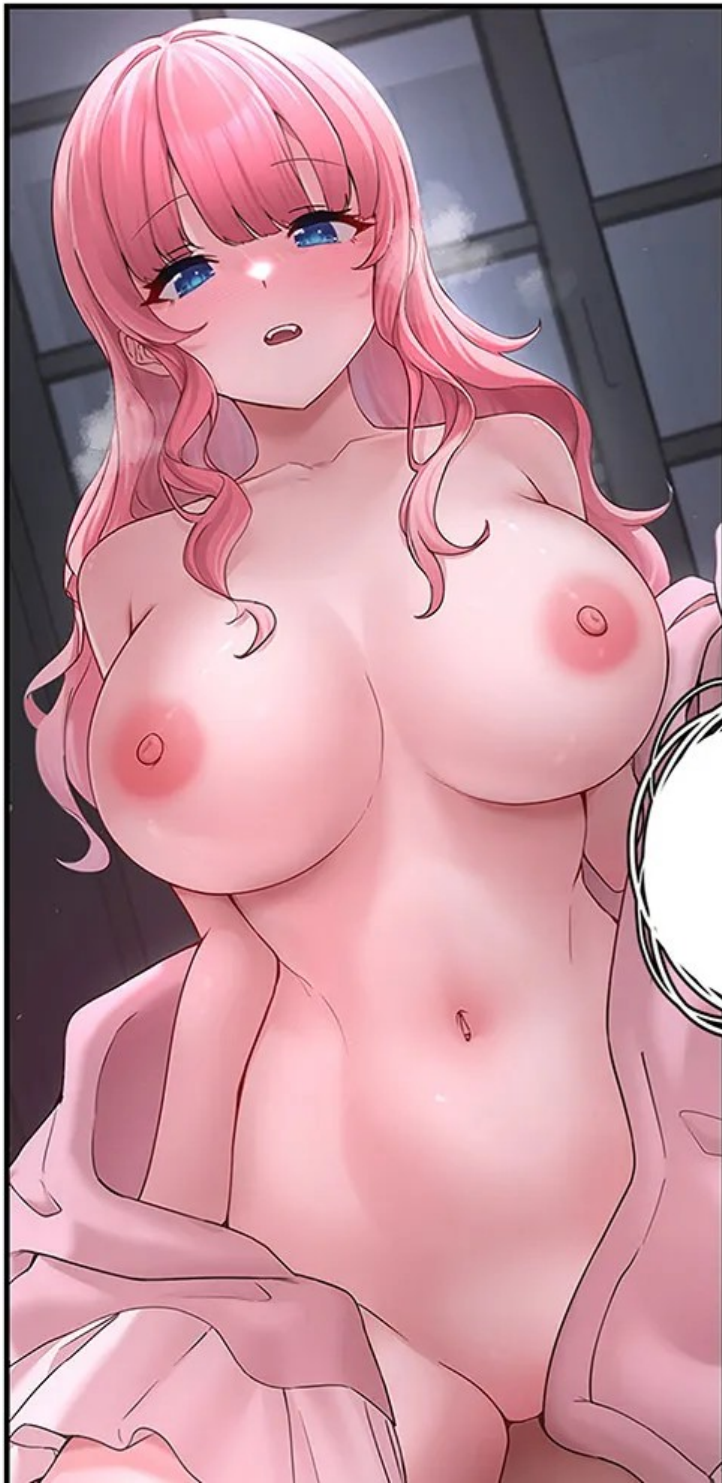


夜舞さんの匂い
体温…どれも
心地がいい…

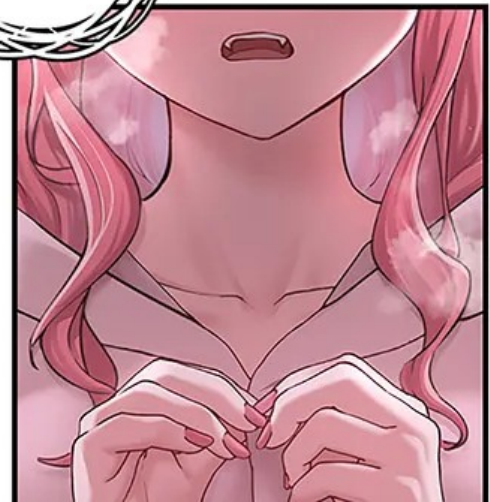
儂く愛しいほどに
必死にしがみ
ついてくる…







もっと
くっつきたい

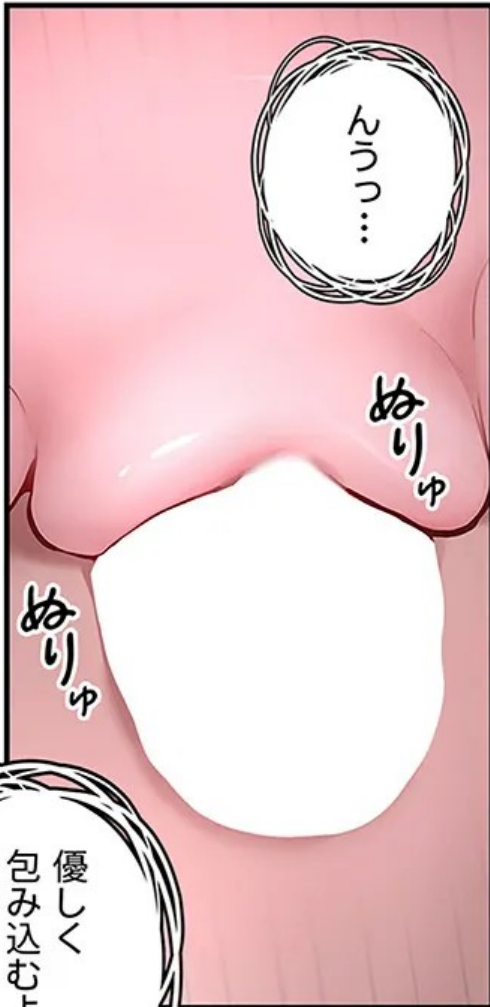


夜舞さんの体
温かいな…



心の温度まで
伝わってくる
気がする…

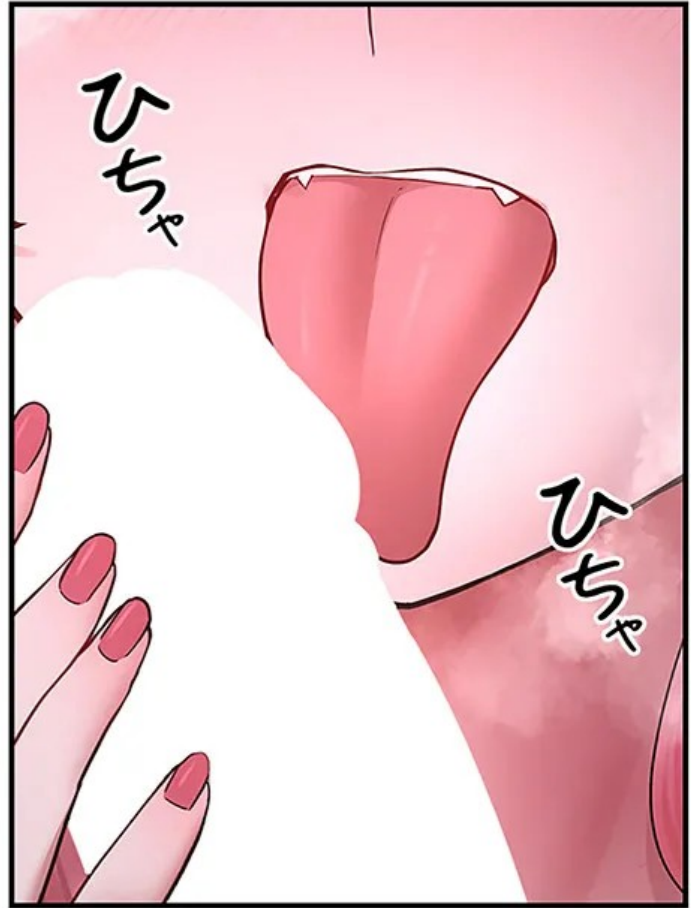




優しく
包み込むように
擦ってる…







美味ひい



柔らかい







嫌じゃなかった
ですかあ…?



一口で
飲み込めないや…

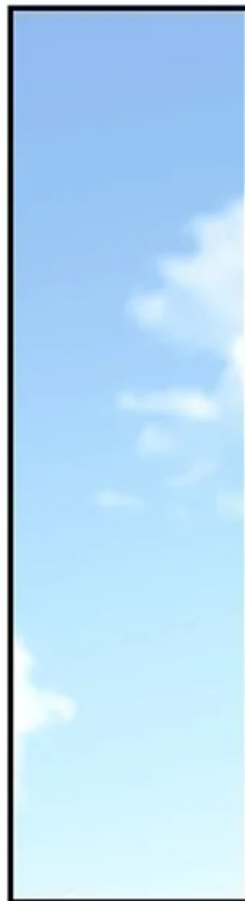


いっぱい
出してくれた…



まさか…
よ…よかった
です…

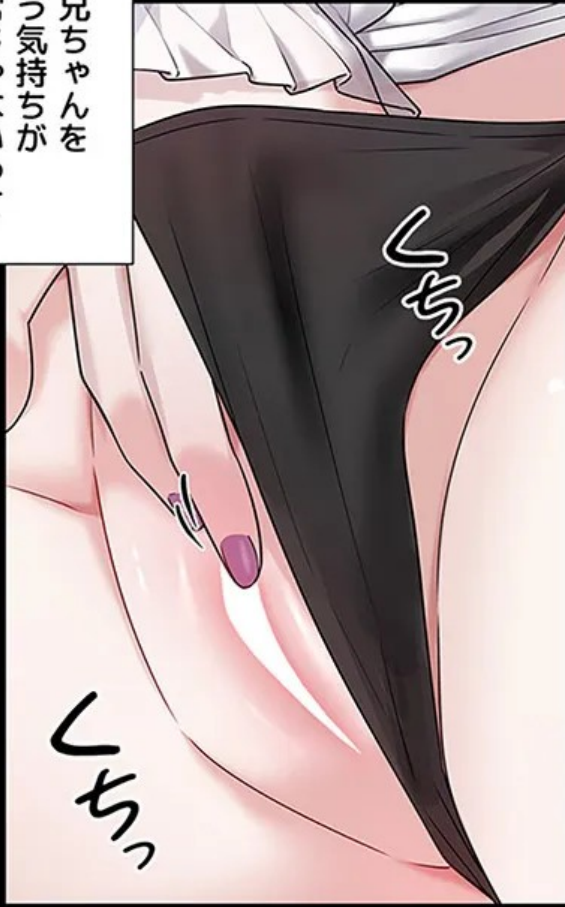






次回予告

お兄ちゃんを
思う気持ち
尋常じゃない
自覚もある



決して
許されない

きょうだいの
特別な愛



comic Blast

TOPTOON

ステラれる子2

著者 蘭夢/ぼんだん
発行 Rush!
表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

© 蘭夢/ぼんだん/TOPTOON